

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20390561

研究課題名（和文） 成人移行期の小児慢性疾患患者の心理社会適応を高める多職種協働患者中心型看護モデル

研究課題名（英文） Promoting psycho-social adaptation among adolescents and young adults with chronic illness: Patient centered and multidisciplinary nursing care model

研究代表者

丸 光恵（MARU MITSUE）

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授

研究者番号：50241980

研究分野：看護学、小児慢性疾患看護、小児がん看護

科研費の分科・細目：看護学、生涯発達看護学

キーワード：小児慢性疾患 思春期 看護 キャリーオーバー 成人医療 小児医療

1. 研究計画の概要

小児慢性疾患患者の生存率は上昇し続けている一方、成人を迎えた慢性疾患患者には多様な心理・社会的問題が報告されている。英米豪等諸外国では 10 代早期より成人医療への移行プログラムが重要視され、実施されている。そこで、これらのプログラムを参考に、日本の移行期の現状に関する調査を行い、成人移行を促進する看護職向け看護モデル（看護ガイドラインおよび教育プログラム）とともに、患者向け情報サイトやインタラクティブメディア・ツールの開発を目的とし、以下の内容について調査・検討を行っている。

（1）北米及び欧州の思春期・青年期の小児慢性疾患患者への看護についてのフィールド調査・資料収集

成人医療への移行を促進する看護の実態

患者の利用する情報サイトや主体的な治療参加を意図したインタラクティブメディア・ツールの活用状況

（2）国内調査

成人移行期（18-25 歳）の小児慢性疾患患者の心理社会適応の実態とその関連要因

小児慢性疾患患者の成人移行期の問題への看護職の対応と、看護－関連職種間の協働に関する実態

小児慢性疾患患者の成人移行期の心理社会適応に関して、他職種と協働を図った看護の実際とその有効性

2. 研究の進捗状況

（1）- および、（1）- については、文献・ウェブ検索を行った。またポロニヤ大学小児病院におけるセミナー、国際がん看護学会、米国小児がん・血液看護学会プレカンファレンス・セミナーに参加し情報収集を行うと共に、豪州の Westmead Children's Hospital にてインタビュー調査を行った。

（2）- については、看護職を対象とした全国調査を行い、その成果を学会発表した。調査の結果をふまえて、現況の日本の状況では、看護ガイドラインを作成するのみでは不十分で、リーダーシップをとれる看護職を養成することが不可欠と考え、移行支援に関する教育プログラムを作成し、平成 21 年より実施している。現在 60 名が受講を修了している。また、平成 21 年度に作成した看護ガイドライン（試案）の試運転を各施設において行い、平成 22 年度に修正・完成させた。（2）- および、（2）- については、上記の教育プログラムで公募した看護職より事例を募り、検討を行った。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

研究計画のうち、（1）- および（2）- についての成果は、学会発表を行った。（2）- および、（2）- については、事例検討を行っているものの倫理的問題をかかえる事例もあり、更なる検討が必要である。

今後、成人医療の専門職を加えて看護モデルの完成を目指す必要がある。

4. 今後の研究の推進方策

(1) については、論文投稿すると共に、患者本人が成人移行過程において活用できるツールの開発を引き続き行う。

(2) 国内調査については、論文投稿を行う。また以下の内容を実施する。

(2) - について、さらに、成人医療の専門職・患者関係者にヒアリングを行う。

(2) - および については、本年度も教育プログラムを継続すると同時に、ガイドライン・教育プログラムの修正を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

1. 伊藤弘樹, 岡崎章, 内藤 茂幸他: 手軽さと効果を考慮したプレパレーション・ツールの開発, 日本デザイン学会デザイン学研究成果集, 115(15), 2010, 78-83, 査読有.
2. 富岡晶子, 丸光恵, 中尾秀子他: 10代の慢性疾患患者への情報提供および支援方法に関する調査 病弱教育に携わる教員を対象として. 小児保健研究, 68(4), 454-462, 2009, 査読有.
3. 石崎優子, 丸光恵, 東野博彦: 思春期以降の小児心身症・発達障害患者を何科がフォローするのか? 大学病院小児科心身症外来患者の中学卒業後のフォロー状況からの考察. 心療内科, 13(2), 153-156, 2009, 査読有.
4. 丸光恵 がん患者の家族ケア Point of View II: 家族周期別 思春期・青年期のがん患者の家族への看護, 家族看護, 1.6(2), 065-074, 2008, 査読無.
5. 鈴木滋夫, 武田鉄郎, 金子健: 全国の特別支援学校<病弱>における適応障害を有する LD・ADHD 等生徒の実態と支援に関する調査研究. 特殊教育学研究, 46(1), 39-48, 2008, 査読有.

〔学会発表〕(計5件)

1. Mitsue Maru, Ikuho Murakami, Hideko Nakao, Rumi Maeda, & Miho Narama, Developing the nursing continuing educational program for facilitating transitional phrases from child-centered medical system to adult oriented medical system, 42nd Congress of the International Society of Paediatric Oncology, 2010 年

10月22日, John B. Hynes Veterans Memorial Convention Center, Boston, USA

2. 村上育穂, 丸光恵, 前田留美他: 小児慢性疾患患者の成人医療への移行に関する家族の要因 日本家族看護学会第17回学術集会, 2010年9月17日, 愛知産業労働センター

3. 中尾秀子, 丸光恵, 村上育穂他: 小児慢性疾患患者の移行状況と看護の実態 日本小児看護学会 第20回学術集会, 2010年6月27日, 神戸ポートピアホテル

4. Rumi Maeda, Mitsue Maru, Ikuho Murakami, Hideko Nakao, Miho Narama: Transitional Issues of Adolescents with Cancer: The Analysis of Cases from the Results of the Questionnaire Survey for Nurses in JAPAN, 16th International Conference on Cancer Nursing, 2010年3月10日, The Westin Peachtree Plaza Atlanta, USA

5. 丸光恵, 岡崎章, 村上育穂: インタラクティブメディアによる小児慢性疾患患者のための成人移行期準備プログラムの試作 日本小児看護学会第19回学術集会, 2009年7月19日, 札幌コンベンションセンター

〔図書〕(計2件)

1. 丸光恵, 石田也寸志, へるす出版, ココからはじめる小児がん看護, 2009, 426(2-8, 13-21)

2. 丸光恵, 石崎優子, 村上育穂他, 自費出版, 成人移行期支援看護師のためのガイドブック. 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科国際看護開発学, 2011, 32ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:
〔その他〕